

# 一人の父親は百人の教師に勝る

～人生論の名著～1千万人の人々に愛読されている。

イギリス最大の教養人・文人政治家～ チェスター・フィールド

## 第一章 「いい習慣を身に着ける」

- \* 時間は大切だと云うけれど、大切に使っている人は皆無・・・
- \* 時間をうまく使うことがどれだけ大切で、一旦失った時間を取り戻すことがどれだけ大変か身をもって人に教えられるだけのものを持っていなければ本当にその時間の価値が分かり使い方を知っているとは言えない。
- \* 若い時に遊ぶ時間は決して無駄ではない！！その経験がないと年を取って遊びを過大評価して自分を見失ってしまうから・・・但し若い時に基礎を作っておかないと年を取った時、魅力のない人となる。
- \* 優れている人とは「基礎のある人」広い知識・物事に対する見識があり態度も立派であると云うことだ、見識を持たない人は寂しい人生を歩むことになる。態度如何で知識や見識も輝いたり曇ったりする。

## 第二章 「器が小さくてはやりたいこともできない」

- \* 若者は人より抜きんでよう・輝こうとし根気強くなければならぬ、シーザーの云ったことに「何かを生み出す行動でなければ行動とは言えない」
- \* これという努力もしないで育つ大木はない～今やらなければならぬ事は世界の動きや・社会の仕組み・時刻や世界の歴史を知ることだ
- \* 一つの事に時間を集中するのが苦痛だから最初に受け取った通りに解決する・いろんな方向から考えてみることをしない、そういう人は洞察力や集中力を兼ね備えた人と話すと自分の無知と怠慢が白日の下に晒される
- \* もう一押し欲がないから進歩がない、難しい事イコール不可能と自分の怠慢さの言い訳としている、真剣に取り組む事が大切
- \* 専門外の知識を知っていることの大切さ、外国語の一つや歴史・地理・経済学の基礎知識、人生いかに生きるかの知恵
- \* 小事をおろそかにするツケは怖い、エチケットや身だしなみ・服装もきちんとしたほうが良い、どんな些細なことでも努力して身に着けることだ、但し外見だけにとらわれて相手の人格を見ない・形にこだわるだけでは仕方がない
- \* 心がそこにいる人ほど一緒にいて不愉快な人はない、それは相手の人を侮辱しているのと同じことだ、人は敬愛の念を抱いている人、

愛している人を前にして気は散らない、現在すべきこと・していることに集中できない人に良い仕事も・良い話し相手にもなれない

- \* 周囲の人に配慮が足りないと云うことは相手の人を馬鹿にしているに等しい、愚かな人も・だらしのない人も大勢いるだろう、しかし馬鹿にしてはいけない、そうすることは身を亡ぼすことになる、人は一度でも馬鹿にされたらいつまでもプライドを傷つけられたと覚えている、例え正論でもその一言が一生の敵をつくる
- \* 愚かな人ほどよく嘘をつくがやがてバレてしまい嘘ほど罪深く、低級で卑しい者と云う証明をしたようなものだ、嘘ごまかしは言わず良心や名誉を傷つけず、深く考え清く生きることだ
- \* 人生の知恵を伝授する人はなかなかいない、親も先生も世間に放り込むことが一番の勉強と考えている人が多い、ある意味では正しいがせめて経験者が大まかな地図を書いて渡すべきだと思う

### 第三章 この「哲学」さえあれば仕事も(勉強)遊びも見事に両立できる

- \* 金や財産を上手く使える人は少ない、しかし最も少ないのが時間を上手く使う人1分を笑う人は1分いや1秒に泣く、だから10分・15分でもおろそかにしない事～疎かにしていると1日何時間も無駄にすることになる
- \* 空き時間も空白時間にしない生き方・過ごし方を工夫しよう、手洗いでの僅かな時間で一石二鳥を得ることも可能(外国語でよく使う熟語を覚えると良い)
- \* 手順の良さは頭の良さの証明でロバート・ウォルポール元首相は人の10倍の仕事を抱えていたが仕事をする手順をきちんと決めていたから慌てているところを見たことがない
- \* 楽しそうに見える事と本当に楽しいこととを見極める目を養い本当に楽しい事だけを使用
- \* 真の遊び人は仕事の喜びを知っている、良識ある人間は遊びが目的にならないし遊びはご褒美と知っている
- \* いつも朝は夜より賢いことを実践する事・朝は本から学び・夜は人から学ぶ、午前中に集中して仕事をする事、真の遊び人は仕事の喜びも知っている。  
ジュリアス・シーザーはローマ中の女性の不義密通の相手と云われたが立派に学者として地位を築き弁士としても一流、更に指導者としての実力はローマ随一とまで言われた
- \* 一つの事に「魂を傾けることの味を知る」仕事も遊びも一生懸命出来ない人はどちらも進歩しない又満足感もない、一度に一つの事をすればたっぷり時間はあある、色んなことが出来る一度に二つの事をすれば一年あっても時間は足りない、毎日今日はこれだけのことをと確認する事、一度やると決めたら集中する事、目の前で起こったことは一つ残らずシッカリとみるという意気込みが P 2

大切だ、世の中には一日中忙しくしているのに寝る前になるといくら考えても反省しても形になるものは何もしていなかった、という人がたくさんいる、毎日「今日はこれだけのことをした」と確認する習慣を身につけ、人と会っている時も目の前で行われている事にも十分注意を傾けることだ、物事は価値があるかないかであり中間はない！！一旦ヤルと決めたら意識を集中して一生懸命ヤレ！！

### { 金銭哲学 }

お金は細心且つ注意を払って使わないと必要最小限のモノすら買えなくなるもの、欲しくもないものを安いからと云う心理で買ってはいけない、収入以上の生活を望むと自分の手が届く「大切なもの」を見失ってしまう、分相応は粗野な人の目にはなかなか見えないものだ、境界線を見極めて上手な人の輝きは大きい

### 第四章 柔軟な「ものの見方」を養う為の読書法

- \* 真実だと思っていたことを今一度疑うことそれが読書の目的、著者名だけで内容を鵜呑みにしない著者の考察がどれ位正しいか複数の本を読み総合して自分の意見を持つようにする
- \* 前例がある内は何の根拠にもならない、この世に同じことが起こった出来事はないのだから
- \* 歴史書の読み方は国別に簡単な歴史を読み大まかな概要を掴む、それと並行して重要と思われる事柄について詳しい書物を徹底的に勉強する、そして自分で深く洞察する
- \* 自分の目と耳で確かめ歩んで学んだ知識こそ本物だ、どこの土地にも、その土地の歴史や現在の様子を簡単に紹介した小冊子があり、それを先ず読み関心のあることを土地の人に聞けばよい

### { 絶大なる効果を生む読書法 }

- ① いろいろな人と話すことで情報を集める
  - ② 無益な本は読まない
  - ③ 一つのテーマに絞ってそれに関連した本を読む
- 以上の事をすれば一日30分でも絶大な効果を生む

### { 自分をアピールする為の判断力・表現力を磨く }

- \* 一般論を持ち出す人は相手にしない、自分に確たるものを持つと一般論などに頼らなくても云いたいことをキチンと云える・機知に富む話ができる、自分で考えようと云う志を立てると物の見方は見事に変わる、整然と見えてくる、但し学識豊かな人は自信のあまり人の意見に耳を貸さないことが多い、

確信がある事でも云いきってしまわない、相手の意見にじっくり耳を傾ける謙虚さが必要

- \* 日常会話を磨き正確で品位があり気取りのない話し方を身につける、本を読むときにそういう目的で読む・文体・言葉の使い方に気を付ける、話し方・書き方に自分独自の「スタイル」を持つことは大切なことだ、実際に声を出し自分の耳で確認する「論争」を想定し自分の考えを文章に纏める訓練をする、取り敢えず「聞き手に何を望んでいるか」を最優先する、聴衆は五感や心をとらえるものだけを喜び受け入れるものだ

{ 付き合いがいのある友人は一生ものの財産 }

～友人は自分の将来を映す鏡だ「温まりにくく冷めにくい友情こそ本当の友情」

- \* 人付き合いでは「下」を見るな「上だけを見る、つまり優れた人達と付き合う」
- \* 「快活さ」と「慎み」が人に好かれるコツ、人の長所を誉め短所は擁護する
- \* 耳に痛いことを言ってくれる友人こそ第一の親友

{ 自分の力になってくれる「人間関係」の築き方 }

- \* 君が気にかけて親切にすればするだけ相手も喜んでくれる、自分がしてもらって嬉しい事を人にして差し上げる事、避けたらよいのは意見が対立するような話題、議論が白熱しそうならばぐらかすか機知を飛ばして終わる方がよい
- \* 自分の話・自慢話で評価される人はいない、人格はいずれ知れてしまう
- \* 相手の言葉は耳より目で聞く～相手の目を見ないことほど失礼なことはない
- \* 相手が褒められたがっていることを誉めるのがミソ、見て見ぬ振りも重要な秘訣
- \* 相手を陰で誉める～とてつもない効果～

以上